

# 等躬と須賀川宿まちなか展覧会はじまりました。

相模等躬生誕三八〇周年記念事業

須賀川宿は、多くの人や物が行き交う白川な宿場と活躍し、清らかな宿場でした。伊勢芭蕉と門人曾良は、曹詩であり、須賀川宿の宿場であったと伝わる。相模等躬の旅歴に八日間の長逗留をしました。

まちなか展覧会

須賀川宿

平成30年 5/16(水)▶6/17(日)

入場無料

【観覧時間】 午前9時～午後5時  
 【休館日】 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)  
 5/21(月)・5/28(月)・6/4(月)・6/11(月)  
 【場 力】 協賛的社、須賀川史談会、NPO法人チャチャ21、須賀川知る会、須賀川あるさとガイドの会、まがひ産協の会、マダタイムス社、阿武隈時報社  
 主催 須賀川市芭蕉記念館

相模等躬生誕380周年となる節目の年を迎え、「おくのほそ道」の旅で芭蕉を迎えた等躬に注目し、須賀川のひとつの歴史を「絵図」や「写真」、「講演会」や「まち歩き」などで紐解きながら、近現代へと続く物語を展開していきます。ぜひこの機会にご観覧下さい。

6月の催事からピックアップ

須賀川市

芭蕉記念館

かわら版

第11号  
平成30年5月

### 墨彩画「おくのほそ道」米倉兌展

会場 芭蕉記念館  
芭蕉翁の心を自ら旅をして描き続けた「おくのほそ道」を題材に描いた作品を展示。

ほか主な展示資料  
 原石鼎「芭蕉翁図像」  
 蒲生羅漢「芭蕉翁 山辺清民賛」  
 増補行程記(もりおか歴史文化館蔵)

### 記念講演会

日時 6月9日(土)  
13:30~15:00  
会場 須賀川市役所  
4階 大会議室  
講師 佐藤勝明先生  
(和洋女子大学教授)  
定員 100名(聴講無料)  
演題 「芭蕉と等躬 -『奥の細道』とその折の交流を中心に-」

### 芭蕉まつり

(主催 本町商店会)

日時 6月10日(日)  
10:00~15:00  
会場 結の辻 芭蕉記念館  
軒の栗ギャラリー

※結の辻北側の道路は歩行者天国になります。  
 野点や俳句大会、箏の演奏や昔話、ゲーム(金魚、水風船すくい、綿飴、紙飛行機大会、昔あそび)などのイベントと盛りだくさんです。

等躬ってそもそも何者?から芭蕉との関係まで、おくのほそ道の豊かな世界をわかりやすくお話しできます。

### 今昔まちなか写真展 まち絵図めぐり展

日時 5月16日(水)~6月17日(日)  
会場 まちなか店舗・芭蕉記念館  
軒の栗ギャラリー(6/9~)

至須賀川駅

至国道4号

①のみり食品 ② 豊年餅屋 ③ 高久田家 ④ 魚いげたや ⑤ 本町ポケットパーク ⑥ 伊藤薬局 ⑦ 中華とん珍 ⑧ 芭蕉記念館 ⑨ 澤井理容店 ⑩ げんば事務所 ⑪ 酒部種苗店 ⑫ アンジュール ⑬ 元ジブラルタル生命ビル ⑭ OYAMA ⑮ 本町集会所 ⑯ 金澤家 ⑰ 小野家 ⑱ 軒の栗ギャラリー ⑲ 近江屋 ⑳ 岡村酒店 ㉑ フジ薬局 ㉒ 井桁屋本舗 ㉓ 四季あかり

可伸庵跡

奥州街道

大町よってけ広場

●東北電力

# 先人をしろう五

## 可伸

か しん  
生没年不詳号、栗齋  
本名、矢内弥三郎  
おくのほそ道に「世を  
いとふ僧」とあるのは  
可伸のこと。



・・・「かわら版第9号」つづき・・・

この宿のかたはらに、大きな栗の木陰を頼みて、世をいとふ僧あり。椽拾ふ太山もかくやと、しずかにおぼえられて、ものに書き付けはべる、その詞、

栗といふ文字は、西の木と書きて、西方浄土せいほうじょうどに便りありと、行基菩薩ぎょうきぼんざつの一生杖にも柱にもこの木を用ゐたまふとかや。

世の人の見付けぬ花や軒の栗  
「おくのほそ道」須賀川の章の一文より

椽：殻の中に栗に似た種があり縄文時代の食用にされてきました。

西方浄土：阿弥陀仏のいる極楽浄土のこと。

行基：東大寺の大仏を造った立役者である奈良時代の僧。

等躬さんの屋敷の片隅に、大きな栗の木があつて、その下にお坊さんがひとり住んでおつた。

西行というお坊さんが「椽ひろふ」と歌に詠んだ奥深い山の暮らしもこんな静かであつたらう。

このように書き付けた言葉は、

栗という字は、西の木と書く。これは西方浄土に通じると行基菩薩は生涯、杖にも柱にもこの木をお使いになられたそう。

世の人の見つけぬ花や軒の栗

(栗の花は目立たない花だが、何とも趣のある花である。そんな栗の木陰でひっそりと生活をしている可伸の人柄をあらわしているようで、いかにも奥ゆかしいことです)

※「山深み岩に垂るゝ水溜めんかつがつ落つる椽拾ふほど 西行」(山家集)

(山深いので岩に垂れてくる水を留めましよう。わずかに落ちている椽の実を拾う間に。)

# おもしろい俳句

## 雨 あめ

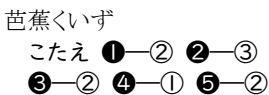
走り梅雨ちりめんじやこがはねまわる 稔典  
梅雨のきざし。そのただならぬ気配にちりめんじやこがはねまわる。ただならぬのは作者の感覚でしょうか。

五月雨に御物遠や月の顔 芭蕉  
何日も降り止まない雨のために、お月さまの顔もしばらく疎遠になつてしまつたよ。

降る音や耳も酸うなる梅の雨 芭蕉  
降る音を来る日も来る日も聞いて「梅」の酸いように耳が酸っぱくなるような感じだといっています。

## 芭蕉くいず

- 芭蕉さんの句「五月雨を集めて早し」とよんだ川は？  
① 阿武隈川 ② 最上川 ③ 天の川
- 相楽等躬さんの晩年の俳号は何でしたか？  
① 乍単斎 ② 東急 ③ 藤躬
- 芭蕉さんが最初に可伸宅を訪れたのは何日目？  
① 一日目 ② 二日目 ③ 三日目
- つぎのうち夏の季語はどれかな？  
① 麦の秋 ② すいか ③ 天の川
- 空いているところには何がはいるかな？  
□ を折りに我もうけ草 等躬  
① バナナ ② いちご ③ りんご



## 豆知識

何日も降り止まない雨を「五月雨」といいます。

## 言の葉

二十四節気  
芒種(6月6日ごろ)  
芒は(のぎ)とも  
読み、稲や麦、トウモロコシなど穂の出る植物の穂先の針のような突起のことを意味します。  
田を耕し、水が張り、麦を刈り取る、と一息つく間もなく、苗床で育てた苗をいよいよ田植えする時期です。  
【須賀川市芭蕉記念館から版「第一号」をお届けします。

## 投句募集

俳句  
ポスト  
第1回×切は8月24日です。